

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 すきっぷ神楽		
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 15日		令和7年 2月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 15日		令和7年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 13日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多機能型事業所として縦割り療育ができること。	・小学生のお兄さんお姉さんの真似をしたり、憧れの気持ちを持つことで自立心が芽生えるように関わっています。	・活動内容や状況により、縦割りで活動する場面と別で活動する場面を明確にできるよう協議し、より安全で充実した活動にしています。
2	野球療育を中心に、様々な活動で構成された総合的な活動内容。	・SSTやコグトレ、運動遊びなど、静と動の活動のバランスを考え、メリハリを持った支援を提供しています。また、活動によっては年齢に合わせてグループ分けをし、取り組み内容を変えるなどしています。	・既存の活動も定期的にメニューを見直し、更に充実した活動を提供できるよう工夫をしています。
3	保護者さまからの要望への対応や情報共有。	・送迎の変更や急な依頼にも迅速に対応できるように心がけています。 ・小さなケガや忘れ物も確実に連絡をするよう意識しています。 ・A3カラーでの通信を発行し、活動の様子をお届けできるよう努めています。	・保護者さまとの信頼関係を深め、より適切な対応を心がけていきます。 ・保護者さまや内容に合わせて、電話連絡やSNS、送迎時の引継ぎと発信方法を変えていきます。 ・より保護者さまによるこんでいただける通信を発行できるよう努めます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	フォーマルアセスメントが薄く、主観でのアセスメントとなっておりやすい。	・現状のアセスメントシートでは、インフォーマルアセスメントは行えますが、客観的な分析を行うのが難しい状況です。	・フォーマルアセスメントとインフォーマルアセスメントを効率よく行えるようなシートを整備し実行していきます。
2	一部の保護者さまとの共通理解が難しい。	・お仕事の都合で送迎時にお会いする機会が少ない保護者さまへ、情報共有を行う工夫が不足していました。 ・マニュアルやお便りを配布していますが、お忙しく、なかなか目を通していただくことが難しい保護者さまがいらっしゃいます。そういった方に見ていただくための配慮を行っています。	・お会いする機会が少ないご家庭の連絡ノートやLINEでの連絡を充実させ、すきっぷやご自宅でのお子さまの様子を共有できるように努めています。 ・マニュアルの配布時や重要イベントの開催時には、案内の配布の他グループLINEでも周知を行います。
3	保育所などとの交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会が限られている。	・他のすきっぷのこどもたちとの交流や、公園外出で譲り合いを行う程度に留まっています。通所しているお子さまはすでに保育園等に通所しており、多くの保護者さまが保育所等との交流を希望していないことや、プライバシーの観点からも難しい現状があります。	・地域の施設の利用を継続して行い、地域の人々との交流を図っていきます。保育所との交流については、希望者がでた際に検討を行います。